

天然記念物（ネコギギ）緊急調査

藤吉利彦・宮本敦史

目 的

三重県内のネコギギは、北勢・中勢地域の河川において生息河川および個体数が急激に減少し、地域個体群の存続が危ぶまれている状況にある。また、比較的良好な状態で個体群が維持されている南勢地方の水系においても、河川改修や周辺環境の改変等生息環境の悪化による個体数の減少が心配されている。このため、県内のネコギギの生息状況および生息環境の把握と保存対策の立案に資することを目的に平成13年度に引き続き調査を実施する。

なお、本報告においては、ネコギギの違法な採捕を未然に防止するため、調査対象河川名の記載は差し控える。

また、2ヶ年の具体的な成果は、別途作成した報告書に記載しているため、ここではその概要のみ報告する。

方 法

1. 生息分布調査

伊勢湾に流入する4水系の8河川、23地点において調査を行った。まず調査対象河川を陸上から視察し、水深、流速、河床等の状況からネコギギが生息可能と思われる地点を選定した。これらの地点で夜間に2人以上で潜水し、水中ライトによる目視観察を行った。ネコギギが発見された場合は魚体の大中小を目視観測し、可能な限り捕獲して体長及び体重を測定した。

2. 生息環境調査

B水系のf川において、川を横断するように20m間隔で3～4測線を設定し、1m毎に表面流速、水深、河床の形態を測定観察した。流速は横河電機製ポケットタコメーターモデル3631を用いて測定した。

結 果

1. 生息分布調査

平成14年度調査においてネコギギの生息が確認できたのはB水系のd川及びf川の2河川であった。平成13年

度に引き続き調査を実施したd川では、川の流れが速くネコギギの採捕は出来なかったものの前年度に確認できなかった中型以上の個体も確認できた。

一方、今年度初めて調査を実施したf川では4地点でネコギギの生息を確認した。また、目視した個体はいずれの場所でも大型個体から小型個体まで確認できたことから、f川では継続的に繁殖が行われているものと考えられた。

表1に全ての調査地点別でのネコギギ確認尾数および確認されたその他の魚種を示す。ネコギギ以外の魚種で出現頻度が高いのはヨシノボリ属、カワムツ、オイカワ、シマドジョウなどであった。希少魚のアカザも多くの調査地点で確認できた。

2. 生息環境調査

生息分布調査によってネコギギの生息が新たに確認できたf川の2地点において生息環境調査を実施し、その調査結果を図1および2に示した。

f川の地点15は岩盤の河床でネコギギの隠れ場所が少ないことから、他の河川におけるこれまでの調査結果からはネコギギの生息には適さないと考えられていた場所であったが、ネコギギが大型個体から小型個体まで多数確認され、この地点でネコギギが繁殖している可能性が高いと考えられた。このため、今後はこの地点におけるネコギギの昼間の巣穴の観察等ネコギギの保護につながる調査が必要であると考えられた。

また、地点16は浮き石の散在する平瀬であり、ネコギギが生息しやすい地点であることに加え、上水道の取水地点のすぐ下流ということもあり、水質等の生息環境が保護されてきたものと考えられた。

関連報文

三重県教育委員会・三重県科学技術振興センター（2003）.
天然記念物ネコギギ緊急調査報告書

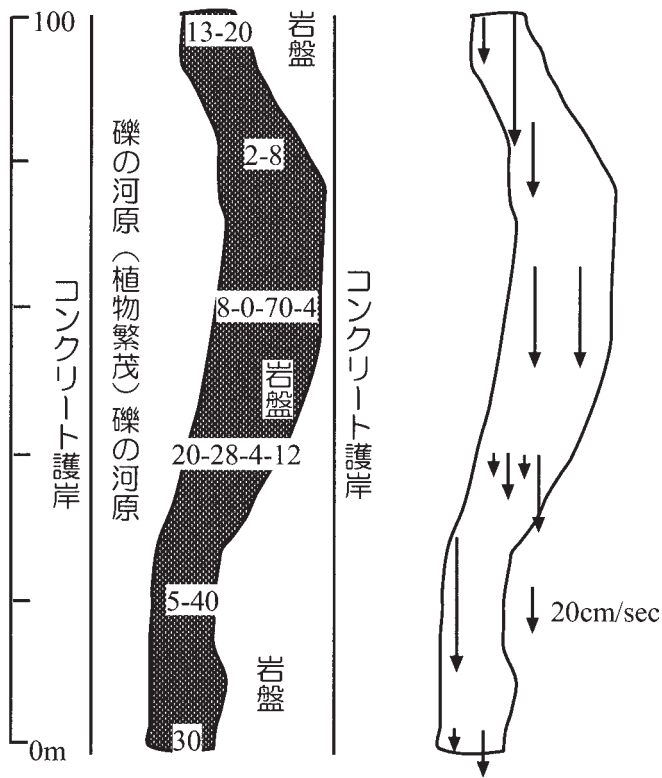


図1 f 川 (地点15) の河床形態と流速分布 (図中の数字は水深)

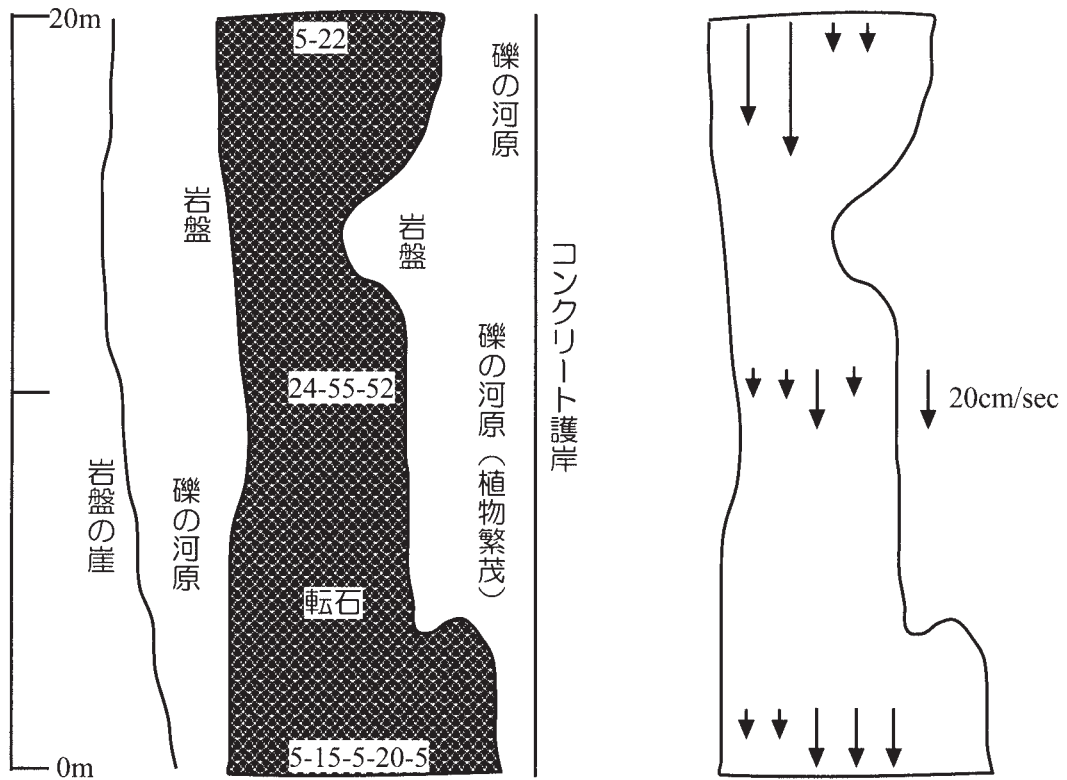


図2 f 川 (地点16) の河床形態と流速分布 (図中の数字は水深)

